



11月になった。時の経つ早さを痛感する。この仕事で、特に3年生と関わっていると自分の大学受験を思い出す。思い出は美化されると言われるが、受験に関しては美化しようのない思い出しかない。美化はされないが、時の流れを経て、いろいろと整理はされてゆく。

高校3年間同じクラスだった友人がいた。明るくて社交的な彼女とは初めは付かず離れずといった関係だったが、意外なところで趣味が合った。例えば日本史が好きで、2年の文化祭の展示では一緒に「正倉院」班になり、紺瑠璃杯や螺鈿紫檀五弦琵琶などの宝物作製係として周囲が引くほどのめり込んだ。ちなみに3年では「もののけ姫」班としてタタラ場のジオラマやシン神さま&大量のこだま作りに共に最後の夏を捧げた。本当に楽しかった。夏が終わり、秋になった。気付けば彼女はシックな英単語帳を持ち歩くようになっていた。それが何だか格好よく見えて、本屋でこっそり同じものを探した。11月、彼女は諸事情あって推薦入試を断念し一般入試に絞った。私は推薦入試に向けて毎日小論文を書いていた。12月、担任から不合格を知らされた。細かい雨の降る日だった。だめだったと告げると彼女はよくやったよと頷いた。あの単語帳はすっかり彼女の手になじみ、少し膨らんで付箋がたくさんついてた。追いつかなければなあ、とぼんやり思った。

1月を迎え、あっさりセンター試験が終わった。翌日の自己採点后、手応え以上の得点に驚きつつ安堵していたところに押し殺したすすり泣きが聴こえてはっとした。斜め前の席、彼女の背が小刻みに震えている。終礼後、彼女はすぐに教室を出た。私はその背を追い掛けることができなかった。二次特編授業が始まった。週末、三者面談を経て受験校を決めた。前期試験、私は推薦で落ちた志望校に、彼女は志望校ではなかった大学に出願した。彼女は目の色を変えて対策に打ち込んだ。2月の前期試験まで飛ぶように過ぎた。3月、卒業式の数日後、私は大学のHPで不合格を知った。ほとんどの模試と自己ベストだったセンター試験の判定をAで揃えて来ての結末に呆然とした。が、(のちの成績開示で自己採点に誤りはなく、合格者最低得点より数点低かったことを知った)単なる二次対策不足だ。誰の所為でもない、己の慢心が招いた結果だった。彼女は合格した。周囲が次々と進路を決めて新生活のスタートを切る中、私は制服を着て登校し、正直想定外だった後期試験の勉強を続けた。初めて必死になった。つらかった。報いだと感じた。4月、私は彼女と同じ大学の入学式に臨んだ。スーツ姿の彼女が「また、よろしく」と複雑な笑顔を向けた。うまく応えられた憶えはない。が、ともかく今に至るまで彼女とは仲良しだ。

そして時折あの頃の話をする。互いにやっと「思い出」になったからかもしれない。

11月になった。時は戻らない。入試に「絶対」はない。しなかった後悔はいつまでも残る。だからこそ、もし君たちの今までに悔いがあるならば、今からは一片の悔いなき時を過ごしてほしい。そして、共に戦い支え合う環境をつくり、感謝の気持ちを忘れずに乗り越えてほしいと心から思っている。

月	日	曜	行事予定(3年に関するもののみ)	朝	夕	備考
11	7	土	創立100周年記念式典	×	×	8:15校門通過
	8	日	英検二次			
	9	月	代休日			
	10	火	普通授業・家庭学習調査	○	○	7:25校門通過
	11	水	普通授業・寺子屋	○	×	7:25校門通過
	12	木	普通授業	○	○	7:25校門通過
	13	金	普通授業	○	○	7:25校門通過
	14	土	土曜講座B・土曜進路講座	×	×	8:15校門通過
	15	日				
	16	月	普通授業	○	○	7:25校門通過
	17	火	普通授業	○	○	7:25校門通過
	18	水	普通授業・放課後進路講座	○	×	7:25校門通過
	19	木	普通授業	○	○	7:25校門通過
	20	金	普通授業	○	○	7:25校門通過
	21	土				